

水戸市少年自然の家 活動プログラム集

(令和7年度版)



水戸市少年自然の家
〒311-4161 水戸市全隈町80-1
TEL029-254-2200
FAX029-254-2201

目 次

活動プログラム一覧表

ウォークラリー	フォトラリー	----- 1
	ウォークラリー	----- 2
	森のビンゴ（休止中）	----- 3
	館内ウォークラリー	----- 4
	館内ビンゴ	----- 5
自然素材創作活動	竹細工	----- 6
	草木染め	----- 7
	とじこメール	----- 8
	森の万華鏡	----- 9
科学創作活動	紙飛行機	----- 10
	ブーメラン	----- 11
	凧作り	----- 12
	ウォーターロケット	----- 13
創作活動	焼き杉板	----- 14
	プラ板キーホルダー	----- 15
	箸作り	----- 16
	和紙のランプシェード	----- 17
	シャボン玉	----- 18
	チラシからこま	----- 19
	チラシかざぐるま	----- 20
	陶芸体験	----- 21
原始体験活動	火おこし体験	----- 22
集団作り	グループワーク	----- 23
知育指導	錯覚で遊ぼう	----- 24
	宇宙パズル&クエスチョン	----- 25
夜の活動	キャンプファイヤー	----- 26
	キャンドルサービス	----- 27
	天体観望会	----- 28
	プラネタリウム	----- 29



令和7年度活動プログラム一覧

水戸市少年自然の家

※教材費や内容は変更になる場合があります。

	ねらい	実施条件		活動の種類	所要時間	材料費	内 容		
		晴	雨						
日中の活動	自然の中へと入りこみ、自然の美しさや厳しさに触れ合い、豊かな感性とたくましい体を育てる	○	×	フォトラリー	2時間程度 ※時間は自由に設定できます。	無料	地図をたよりに、制限時間内にチェックポイントを回り、得点を集めます。スタート前にチームごとに作戦(ポイントを回る順番)を立て、チェックポイントでは見本と同じ写真を撮影します。チェックポイントに設定された数字がそのまま得点となり、より合計点の高いチームが上位です。		
		○	△	ウォークラリー	森①・②5.4km ※休止中	約1時間30分	無料	コマ図という進むべき道が書かれた地図を持ってグループごとにゴールを目指し歩きます。途中で出題される問題も解いていくことで環境学習にもつながっていきます。山根地区の豊かな自然の中をコマ図を頼りにコースを回るスポーツです。 林コースは森の中を、湖コース・川コースは楢川ダム周辺を回ります。湖と川コースはほぼ全面アスファルト(一部砂利)道で、小雨でも開催できます。	
					林①・②4.4km ※休止中	約1時間			
					湖①・②5.6km	約2時間			
					川①・②4.6km	約1時間30分			
	○	△	森林公園へのハイキング	イージー(片道2.6km)	1時間(片道)	無料	森林浴をしながら、森林公園に向かいます。森林公園には、恐竜広場やふれあい牧場等があります。遊具やトレイルランニングコースもあります。		
	○	△	森のビンゴ※休止中		1時間程度	無料	森の中でカードに書かれたキーワードをいくつか探し出せるか、自然への関心を高め、観察力や想像力を育む活動です。ビンゴカードは、幼児・低学年用と高学年・中学生用の2種類あります。		
	プログラムを通して共通の目的を持ち、目的を達成していく中で、協力し合いながら友との絆を深める	○	○	館内ウォークラリー	約1時間30分	無料	問題を解きながら館内を回ります。		
		○	○	館内ビンゴ	約1時間30分	無料	館内の施設の一部分が写った写真を手がかりに、ビンゴを完成させます。		
		○	△	野営テント体験	宿泊	無料	テントに宿泊します。自然という大自然の中で『テント』という媒介を使ってグループで心を通わせ、1つのことに取り組む協働体験を行うことができます。		
		○	○	テント張り体験(室内)	1時間30分～2時間	無料	テントの立て方や片付け方、テントサイトでの過ごし方などテント泊の基本を体験を通して学びます。また、指導者の方も子どもたちと一緒に活動することで『共有型』の学習を行うことができます。		
		○	△	スポーツ活動	2時間程度	無料	・球技(バレー、バスケット、サッカー、卓球、バドミントン、ドッジボール) ・フライングディスク、綱引き、竹馬など		
	自然素材で創作活動を楽しむ	○	△ ○ ○ △ △	ネイチャークラフト(自然の家のアトリエ)	△			自然の家付近の野山で採取できる天然素材等を使って作品を作る活動です。	
					○	A…竹細工	2時間程度	100円	竹ランタン、竹とんぼ、竹笛、ぶんぶんごま
					○	B…草木染め		150円	玉ねぎの皮などを使った草木染め体験 ※布は団体でご用意ください。
					△	C…とじこメール	1時間～1時間30分	150円	落ち葉や花びらなどを使ったカード作り
					△	D…森の万華鏡		150円	葉や実、花びらなどを使った万華鏡作り
科学的で独創的な発想に基づく創作活動を楽しむ	○	△	科学創作活動	○	A…紙飛行機(小学4年生以上)	約1時間(制作のみ)	50円	発明工夫の楽しさやイメージを具現化し創作していく喜びを体得していきます。飛ばして遊びながら飛ぶ仕組みを学び、飛ばすための工夫をすることで、科学への探求心を育みます。※Bの紙飛行機は、材料の紙を団体で用意してください。	
				○	B…紙飛行機(全年齢)		無料		
				○	C…ブーメラン		50円		
				△	D…凧作り	1時間30分(制作のみ)	150円		
				△	E…ウォーターロケット		100円		

令和7年度活動プログラム一覧

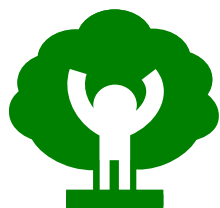
水戸市少年自然の家

※教材費や内容は変更になる場合があります。

	ねらい	実施条件		活動の種類	所要時間	材料費	内 容
		晴	雨				
日中の活動	創作活動を楽しむ	○	○	焼き杉板	約1時間30分	200円	杉板にのりで文字を書きバーナーで焼き、自分だけのオリジナル看板を作ります。
		○	○	プラ板キーホルダー	約1時間	100円	プラスチック板(15cm四方)にマジックで好きな絵や文字を書き、オープンで焼いてキーホルダーを作ります。
		○	○	箸作り	約2時間30分	150円	木をかんなどで削って箸を作り、彩色まで行います。
		○	○	和紙のランプシェード	約2時間	200円	紙コップに和紙を貼ってランプシェードを作ります。
		○	△	シャボン玉	約1時間30分	50円	シャボン玉を作る道具を自分で作って、様々な大きさのシャボン玉を作ります。
		○	○	チラシからこま	約1時間30分	無料	チラシを使ってオリジナルなこまを作ります。※チラシは団体で用意してください。
		○	○	チラシかざぐるま	約1時間30分	50円	チラシと小さな部材を使って、くるくる回るかざぐるまを作ります。※チラシは団体で用意してください。
		○	○	陶芸体験	1時間30分～2時間	900円(送料別)	ろくろを使わず手作りで作品を作り上げます。形ができれば、色付けを行います。
	原始活動を体験する	○	△	火起こし体験	約1時間30分	50円	昔の方法で火を起こす活動です。火を生み出し、火を扱い、火を見つめる体験を通して、創造力や思考力をはぐくみます。
	いじめ防止、学級開きや集団作り、自己有用感の育成等を育む	○	○	グループワーク	1時間～2時間(調整可能)	無料	グループワークプログラムに取り組み、関わり合いを通して楽しみながら心を育てる活動です。学年・学級開きの活動にピッタリです。
	集中力や推測する力、想像力を養う。	○	○	錯覚で遊ぼう	1時間	無料	講師の解説のもと、錯視を引き起こす画像や立体の例を知り、多面的なものの見方や想像力を養います。※夜の活動も可
		○	○	宇宙パズル&クエスチョン	1時間	無料	講師の解説のもと、パズルゲームなどを通じて、集中力や論理的な思考力を養います。※夜の活動も可

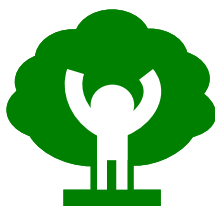
	ねらい	実施条件		活動の種類	所要時間	料金	内 容
		晴	雨				
夜の活動	夜の自然の懐の中で、仲間たちと親睦を深めたり、夜の神秘さを体験する	○	△	キャンプファイヤー(屋外・屋内)	約1時間	新代3,000円(屋内は1,800円)	薪の炎を囲んで歌や踊りを楽しみ、参加者に一体感が生まれる活動です。※雨天時は、多目的ホールの室内営火場でキャンプファイヤーが行えます。※晴天時は、星空観察も併せて行うことができます。その際には、事前にご相談ください。
		○	○	キャンドルサービス	約1時間	※無料	キャンドルに火を灯して、歌や踊りを楽しみ、参加者に一体感が生まれる活動です。※ろうそく、アルミホイルは団体でご用意ください。
		○	×	天体観望会(大望遠鏡を使用します。)	30分～1時間30分	無料	専任講師が付いて、大望遠鏡で広大な星空を観察します。
		○	○	プラネタリウム(1回につき25人まで。複数回可。)	30分～1時間30分	無料	エアドームの中で専任講師の生解説付きのプラネタリウムを観賞できます。季節に応じた解説が楽しめます。※遮光性のドームのため、屋間でもプラネタリウムを行えます。
		○	×	ナイトハイキング※休止中	40分～1時間	無料	一周約1・2kmのハイキングコースを廻る中で、夜でしか感じることでできない月の明るさや森の静けさ、神秘さや野生動物の気配などを感じることが出来ます。※晴天時は、星空観察も併せて行うことができます。その際には、事前にご相談ください。
その他		○	×	ウォーターロケット打ち上げ実演	応相談	無料	専任講師が、ウォーターロケットの打ち上げ実演をします。ウォークラリーなどの空き時間にいかがですか。
		○	△	大道芸体験	応相談	無料	講師の解説のもと、数ある大道芸の種類の中から「ボールジャグリング」と「ダイススタッキング」を体験します。

※冬季期間に多目的ホール(体育館)や創作のやかたを使用する場合は、石油ストーブを使用することができますが、灯油をご持参ください。



フォトラリー

概要 (セールスポイント)	・指定された時間内にコース上のチェックポイントを見つけ、写真撮影することにより得点が与えられる。チェックポイントは各チームで作戦を立て、任意の順番で回ることができる。 ・参加者の年齢や体力に応じて、コース選定や競技時間を設定することができる。			
諸条件	場 所	少年自然の家周辺	対 象	小学生高学年以上
	所要時間	2時間程度(利用者側で調整可)	人 数	200人程度まで
	時 期	通年	天 候	雨天時は中止
活動の 教育的効果	・チームで作戦を立て、協力し合いながら活動することにより、協調性や連帯感が育まれる。 ・全隈町周辺の名所や景観を楽しみながら学習することができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	□フォトラリーセット(26セット) (地図・ポイント一覧・記入シート) □デジタルカメラ(10台)←足りない分は団体で用意 □ビブス(50枚)		□水筒 □動きやすい服装 □帽子 □防寒着(実施時期に応じて) □筆記用具 □バインダー □時計	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前 準 備	□活動の流れを確認(ルールの事前周知) □参加年齢に応じてコース内のチェックポイントを調整 □デジタルカメラの準備(自然の家では18台まで用意できます)		□緊急時対応
	フォトラリースタート	□フォトリレースタート(スタート地点は玄関前・グラウンド) □巡回車・コース内に引率者の配置		□引率者の配置
	休 憩	□トイレ・水分補給の休憩		□団体の責任者は健康チェック
	結果発表	□結果発表 □表彰		
	終 了	□フォトラリー用具の片づけ※(デジカメのデータ消去) □各団体の目的に応じた事後指導		□借りた用具の確認
想定される リスク	□活動途中でデジカメが故障してしまう。 □活動中のケガや事故への対策や対応。 □コースを大きく外れてしまうチームへの対策(私有地への侵入, 害獣駆除用の電気柵等)			
指導の バリエーション	□参加者の年齢や体力に応じて、チェックポイントの一部に制約を加え、活動エリアの調整を各団体ごとにする。			



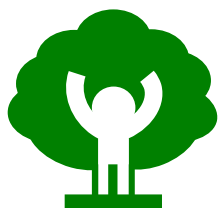
ウォークラリー

コースの種類	森 ①②コース 5.4km ※ 休止中 林 ①②コース 4.4km ※ 休止中 湖 ①②コース 5.6km 川 ①②コース 4.6km *①②は逆回り			
概要 (セールスポイント)	・ウォークラリーは、グループで『コマ図』をたよりにコースを歩き、得点やタイムを競う競技。ポイントに問題を設定することもできる。 ・自然の家がある全隈町の豊かな自然に触れながら、グループで協力しながら活動する。			
諸条件	場 所	少年自然の家周辺	対 象	小学生以上
	所要時間	約1時間～2時間	人 数	制限なし
	時 期	通 年	天 候	小雨程度まで可
活動の 教育的効果	・グループの仲間と全行程を歩くことで、豊かな自然に親しみながら達成感を味わいながら、仲間同士励まし合うことにより仲間意識を深めることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 本部用長テーブル ☐ パイプ椅子 ☐ 計量器 ☐ ビブス(50枚) ☐ コマ図 ☐ 記入シート		☐ 個人:帽子・水筒・雨具・タオル・バインダー・筆記用具 ☐ 団体:救急バック・コマ図等のコピー	
活動内容 (手順)	活動の流れ	内 容		備 考
	事 前	☐ コースを決定する ☐ 引率者による事前踏査(配慮する場所の確認) ☐ グループ編成		
	出発前	☐ 実施決定の判断(天気予報を確認) ☐ 準備物の確認 ☐ 参加者の健康観察 ☐ 本部の設置		☐ 引率者の配置 ☐ 長テーブルとパイプ椅子の設置
	直 前	☐ 活動方法の説明と安全指導		☐ 出発前にトイレを済ませる
	出 発	☐ 玄関前のスタート位置からスタート ☐ 時間差をつけて出発 ☐ 各ポイントで人数確認、健康観察		☐ 緊急時対応 ☐ 定時連絡
	終 了	☐ 参加者の点呼、健康状態の確認 ☐ 各団体の目的に応じた事後指導		
想定される リスク	☐ 天候の変化による事故(天気の急変、雨による転倒、落雷等) ☐ 疲労や集中力不足の事故(信号無視、走行車両の見落とし、熱中症等) ☐ 道路環境による事故(側溝への転落、曲がり角での事故等) ☐ 人的要因で起こる事故(車道や歩道に広がったの事故、ふざけての事故等)			
指導の バリエーション	☐ 得点を競う競技として実施することができます。 ☐ 各ポイントの課題を、ねらいに応じて設定します。 (例)自然に親しむような課題を出す 「鳥の鳴き声を記録しよう」			



森のビンゴ(休止中)

概要 (セールスポイント)	・グループでナイトハイクコースを歩きながら、カードに書かれたキーワードを観察力と想像力を働かせながら見つけ出す。 ・グループ全員がキーワードの動植物を確認できたらカードに印をつける。 ※一部区間休止中			
諸条件	場 所	ナイトハイクコース	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間程度	人 数	50人程度
	時 期	通年	天 候	小雨程度まで可
活動の 教育的効果	・ 自然への関心を高め、観察力や想像力を育む。 ・ 身近な自然を改めて確認することができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む) ☐ 幼児・低学年用カード(6種類) ☐ 高学年・中学生用カード(10種類)		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐ バインダー ☐ 動きやすい服装 ☐ 筆記用具 ☐ 防寒着(実施時期に応じて) ☐ 帽子 ☐ 水筒	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ グループ編成(4～5人程度)		
	出発前	☐ 準備物の確認 ☐ カードの内容の確認 ☐ 探す範囲、活動時間等の諸注意		
	直 前	☐ 活動方法の説明と注意事項の指導		
	出 発	☐ スタート位置に集合 ☐ 時間差をつけて出発		
	終 了	☐ ビンゴの数の発表 ☐ 「木の独り言」等の想像力を働かせて見つける箇所に○を付けたグループに、どのようなことを言っていたかなど質問して発表してもらう。		
想定される リスク	☐ 危険な動植物(マムシ、ハチ、うるしなど)			
指導の バリエーション	☐ ビンゴ競技として実施することができる。 ☐ 参加者の年齢に応じて難易度の選択が可能。			



館内ウォークラリー

概 要 (セールスポイント)	・館内ウォークラリー問題用紙を見ながら、自然の家全棟にある問題を解いていく。 ・班の人と協力しながら、得点やタイムを競うゲーム。				
諸条件	場 所	全館	対 象	小学生	
	所要時間	1時間30分程度	人 数	50人程度	
	時 期	通年	天 候	随時	
活動の 教育的効果	・グループで問題を解きながら仲間意識を深めることができる。				
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考		
	☐ 館内ウォークラリー問題用紙 ☐ 館内ウォークラリー解答用紙 ☐ 館内配置図		☐ バインダー ☐ 筆記用具		
活動内容 (手順)	活動の流れ				備 考
	事 前	☐ ウォークラリー当日が雨天で実施できない場合に判断する。 ☐ グループ編成 ☐ 他団体が使用している所の説明			
	出発前	☐ 準備物の確認 ☐ 本部の設置 ☐ スタート位置の決定			
	直 前	☐ 活動方法の説明と注意事項の指導			
	出 発	☐ スタート位置に集合 ☐ 時間差をつけて出発			
	終 了	☐ 問題回収・採点 ☐ 各団体に応じた事後指導			
想定される リスク	☐ 複数団体利用時に入ることができない場所の問題。 ☐ 複数団体利用時の人的要因で起こる事故(騒音・他団体とのトラブル)。 ☐ 誤って厨房に入った時の衛生管理。				
指導の バリエーション	☐ 得点を競う競技として実施することができる。				

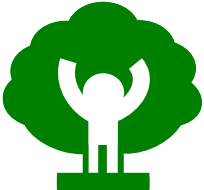
	館内ビンゴ			
概 要 (セールスポイント)	・館内ビンゴ問題用紙を見ながら、自然の家全棟にある問題を解いていく。 ・問題用紙にある場所へ行き、その周辺にある写真(昆虫・花)を見つける。 ・班の人と協力しながら、得点やタイムを競うゲーム。			
諸条件	場 所	全館	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間30分程度	人 数	50人程度
	時 期	通年	天 候	随時
活動の 教育的効果	・グループで問題を解きながら仲間意識を深めることができる。 ・身近な昆虫・花を改めて確認することができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 館内ビンゴ問題用紙 (花コースか虫コース) ☐ 館内ビンゴ解答用紙 ☐ 館内配置図		☐ 筆記用具 ☐ バインダー	
活動内容 (手順)	活動の流れ	備 考		
	事 前	☐ ウォークラリー当日が雨天で実施できない場合に判断する。 ☐ グループ編成 ☐ 他団体が使用している所の説明		
	出発前	☐ 準備物の確認 ☐ 本部の設置 ☐ スタート位置の決定		
	直 前	☐ 活動方法の説明と注意事項の指導		
	出 発	☐ スタート位置に集合 ☐ 時間差をつけて出発		
	終 了	☐ 問題回収・採点 ☐ 各団体に応じた事後指導		
想定される リスク	☐ 複数団体利用時に入ることができない場所の問題。 ☐ 複数団体利用時の人的要因で起こる事故(騒音・他団体とのトラブル)。 ☐ 誤って厨房に入った時の衛生管理。			
指導の バリエーション	☐ 得点を競う競技として実施することができる。 ☐ 参加者の年齢に応じて難易度の選択が可能。			



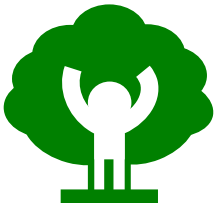
竹細工

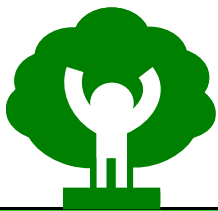
概 要 (セールスポイント)	・自然素材である竹を用いて、様々な竹細工を作ることができる。 【作成例】 竹とんぼ 竹ランタン 竹笛 ぶんぶんこま						
	諸条件	場 所	多目的ホール, 創作のやかた	対 象	小学生高学年以上		
	所要時間	1時間～2時間程度		人 数	40人程度		
	時 期	通 年		天 候	随時		
活動の 教育的効果	・制作を通して豊かな感性や想像力等が育成される。 ・自然の素材を活用し、創作を通じ生活を豊かにする力を身につける。						
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)			団体(個人)が準備する物 ※参考			
	□竹 □半紙 □厚紙 □テープ □新聞紙 □LEDライト □ペン □風 糸 □はさみ □カッター □ノミ □げんのう □小刀 □ガスバーナー □竹のこぎり □やすり □鉋 □ニス □ハケ ※用具は数に限りあり			□材料費(100円) □軍手 □鉛筆 □定規			
活動内容 (手順)	活動の流れ					備 考	
	事前	□使用する材料等の確認をする。					
	製作	□作り方の説明をする。 □竹細工製作を行う。					
	終 了	□後片付けをする。 □諸連絡					
想定される リスク	□のこぎり、げんのう等を使用する際に、誤ってけがをしてしまう。 □ガスバーナーを使用する際に、誤ってやけどをしてしまう。 □素材が竹なので、時間がたつとカビてしまう。 □LEDライトの破損(個体差による不良)や点灯しにくいなど						

		草木染め			
概要 (セールスポイント)		・玉ねぎの皮などを使った草木染めを行う。 ・輪ゴムや割り箸などで染める布を縛ることによって色々な模様をつけることが出来る。			
諸条件	場 所	創作のやかた		対 象	小学生以上
	所要時間	2時間程度		人 数	30人程度
	時 期	通 年		天 候	随時
活動の 教育的効果		・制作を通して豊かな感性や想像力等が育成される。 ・自然の素材を活用し生活を豊かにする力を身につける。			
準備する物		少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐ ガスコンロ・鍋・ざる・水 ☐ 染料の植物(玉ねぎの皮など) ☐ 媒染剤(みょうばん) ☐ さいばし ☐ 輪ゴム・割り箸・油性ペン ☐ ゴム手袋 ☐ はかり・計量カップ ☐ 物干し台 ※用具は数に限りあり		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐ 材料費(150円) ☐ 染める布等(綿や絹、ウールのハンカチやスカーフなど)	
活動内容 (手順)	活動の流れ				備 考
	事 前 準 備	☐ 染める布等(綿や絹、ウールのハンカチやスカーフなど)に個人の名前が分かるようにタグをつけ、各自の名前を油性ペンで書きこむ			
	グループ 活動	☐ 輪ゴムや割り箸などで模様をつける方法や、染色方法の説明を聞く。 ☐ 各自自分の布の模様をつける。 ☐ 染色液、媒染液を準備し、染色～媒染を行う。 ☐ 輪ゴムなどを外し、水洗いをしてから物干し台に干す。			☐ 引率者の配置 ☐ グループ分け
	ふりかえり	☐ 出来上がった作品をグループ内で鑑賞する ☐ 使った道具や身の回りの片付けをする			
	終 了	☐ 借りた用具や室内の清掃を行う。 ☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する ☐ 各団体の目的に応じた事後指導を行う。 ☐ 乾いたら持ち帰って学校や自宅でアイロンをかけて仕上げる。			
想定される リスク		☐ 作品作りがうまくできない参加者への支援をする。 ☐ ガスコンロでお湯を沸かすので火傷しないように注意する。 ☐ 名前のタグが取れてしまい、誰のものかわからなくなる。 ☐ 模様をつける時に細かく畳みすぎて表面しか染まらない場合がある。			
指導の バリエーション		☐ 輪ゴムや割り箸のかけ方で模様の違いが出ることを体験する。 ☐ 作品をお互いに鑑賞し合って楽しむ。			

	とじこメール			
概 要 (セールスポイント)	・自分で集めた天然素材を生かして、押し花の要領で自分だけのオリジナルのハガキを作る活動プログラムである。 ・自然散策と創作活動の2つの要素が含まれるプログラム。			
諸条件	場 所	グラウンド周辺・創作のやかた	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間 ～ 1時間30分	人 数	120人程度
	時 期	通年	天 候	小雨決行
活動の 教育的効果	・さまざまな感覚が研ぎ澄まされる。 ・観察力・想像力を高める。 ・自然から豊かな発想を得ることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐ とじこメール用のハガキ ☐ はさみ ☐ 油性ペン ※用具は数に限りあり		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐ 好きな色のボールペン(メッセージ用) ☐ ビニール袋(採取した花や葉を入れる) ☐ 材料費(150円)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前 準 備	☐ 活動の流れの説明 ☐ 素材採取時の注意点		
	グルー プワ ーク 活 動	☐ 素材の取り方や採取する上での注意点の説明 ☐ 素材採取開始(15分～20分)※少し多めに取ってくる ☐ とじこメールの作成の仕方説明 ☐ とじこメールの実践		☐ 引率者の配置 ☐ グループ分け
	ふりかえり	☐ 出来上がった作品をグループ内で鑑賞する ☐ 使った道具や身の回りの片付けをする		
	終 了	☐ 用具の片付け ☐ 室内の清掃 ☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する ☐ 各団体の目的に応じた事後指導		
想定される リスク	☐ 作品作りがうまくできない参加者への支援。 ☐ 天然素材を採取しているときの安全面の確保。			
指導の バリエーション	☐ 作成したハガキ作品を少年自然の家から自宅へ送る。 ☐ 採取した自然素材をはさみで加工したり、色を付けたりして楽しむ。 ☐ 作品をお互いに鑑賞し合って楽しむ。			

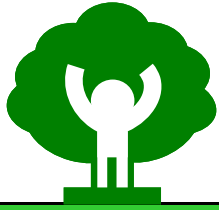
	森の万華鏡			
概要 (セールスポイント)	・自然の家の森で花びらや葉っぱを採取し、それを使って作品をつくる。 ・万華鏡の筒に絵を描くこともできる。			
諸条件	場 所	グラウンド周辺、創作のやかた	対 象	小学生以上
活動の 教育的効果	所要時間	1時間30分程度	人 数	120人程度
準備する物	時 期	通 年	天 候	小雨決行
活動内容 (手順)	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)	団体(個人)が準備する物 ※参考		
事前準備	☐ 接着剤 ☐ 万華鏡のキット ☐ はさみ ☐ 油性ペン ※用具は数に限りあり	☐ 材料費(150円) ☐ ビニール袋		
グループ活動	活動の流れ	☐ 活動の流れの説明 ☐ 素材採取時の注意点		備 考
ふりかえり	終了	☐ 素材の取り方や採取する上での注意点の説明 ☐ 素材採取開始(15分～20分)※色のコントラストをはっきりさせるように。 ☐ 『森の万華鏡』の作成の仕方説明 ☐ 出来上がった作品をグループ内で鑑賞する ☐ 使った道具や身の回りの片付けをする ☐ 借りた用具や室内の清掃 ☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する ☐ 各団体の目的に応じた事後指導		☐ 引率者の配置 ☐ グループ分け
想定される リスク	☐ 作品作りがうまくできない参加者への支援。 ☐ 天然素材を採取しているときの安全面の確保。			
指導の バリエーション	☐ 作品をお互いに鑑賞し合って楽しむ。			

		紙飛行機 (ペーパークラフト)			
概要 (セールスポイント)		・型紙を切りぬき、貼り合わせて紙飛行機を作って飛ばす。 ・どうすればよく飛ぶようになるか工夫・実験をし、トライ＆エラーの楽しさを体験する。 ・飛行機の飛ぶ仕組みや操縦する仕組みを体験を通して学ぶ。			
諸条件	場 所	大・小研修室→グラウンド・多目的ホール		対 象	小学生以上
	所要時間	1時間程度(制作のみ)		人 数	120人程度
	時 期	通年		天 候	全天候(晴れが望ましい)
活動の 教育的効果		・飛行機を作って飛ばすことで、物づくりや工夫して問題を解決する楽しさを体験できる。 ・飛行機の飛ぶ仕組みや操縦するしぐみを学ぶことができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)			団体(個人)が準備する物 ※参考	
	□型紙 □接着剤 □ホッチキス □輪ゴム □割りばし □カッターマット □はさみ □カッター ※用具は数に限りあり			□材料費(50円) □個人持ちの(はさみ, カッター) □セメダイン(可能であれば) ※全年齢対象の紙飛行機は、材料の紙を団体で用意してください。	
活動内容 (手順)	活動の流れ				備 考
	事前	□団体の責任者と型紙についての難易度の相談。			
	準備	□型紙の配付 □作り方の説明, 安全の注意			
	製作	□手順を確認しながら製作する。			
	講話 テスト飛行	□飛行機の飛ぶ仕組みと紙飛行機の調整方法を学ぶ。 □製作した紙飛行機のテスト飛行＆調整			
	飛ばして遊ぶ	□グラウンドまたは多目的ホールで製作した紙飛行機を飛ばす。 より長く、遠くへ飛ばすための工夫。			
	終了	□用具の片付け □室内の掃除 □諸連絡			
想定される リスク	□はさみ, カッターを使用にするにあたってのケガ。 □飛ばした飛行機が参加者に当たってしまうことや、飛行中の飛行機を追いかけるのに夢中になることによる衝突。 □飛ばした飛行機が木に引っかかる。				
指導の バリエーション	□年齢層やスキル等により、より製作が簡単な『ホチキスpeg機』を製作することも可能。 □雨天時でグラウンドが使えない場合、多目的ホールで『的あてゲーム』をすることも可。 □別に製作してある複葉機・先尾翼機を飛ばしてみる。				



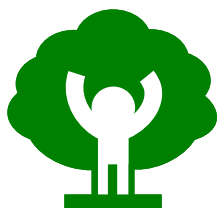
ブーメラン

概 要 (セールスポイント)	プラスチック板を使った簡単な工作で、投げると戻ってくるブーメランを作る。			
諸条件	場 所	大・小研修室, グラウンド, 多目的ホール, 創作のやかた	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間程度(制作のみ)	人 数	120人程度
	時 期	通年	天 候	全天候
活動の 教育的効果	・非常に簡単な工作で作ったもので遊ぶことができ,「自分で使うものを自分で作る」喜びを体験できる。 ・投げた場所にきちんと戻ってくるためには練習が必要であり,練習によってスキルを身につける楽しさを体験できる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ プラスチック板 ☐ ビニールテープ ☐ ハサミ ☐ 油性ペン ☐ 定規 ※用具は数に限りあり		☐ 材料費(50円)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前 準 備	☐ 材料(人数分)の準備・確認		
	導 入	☐ 活動の流れを説明 ☐ 活動上の注意点の確認		
	活 動	☐ 製作活動スタート ☐ 試し投げ ※人には向けないこと		☐ 引率者は児童生徒の安全確認
	終 了	☐ 後片付け(借りた道具は元の位置へ戻す) ☐ 各団体の目的に応じた事後指導		☐ 借りた用具の確認
想定される リスク	☐ 活動中のケガや事故への対策や対応。 ☐ 試し投げの際に誤って周囲の友達に当ててしまう。 ☐ 製作中にハサミを使用をする。			
指導の バリエーション	幼児向けとして,工作用紙でも作ることができる。紙製のため,怪我のリスクが低くなる。			



凧作り

概 要 (セールスポイント)	・凧作りの製作を通して、ものづくりの楽しさや工夫する面白さを体験で学ぶ。 ・凧の傾きや空気の流れなど凧の飛ぶ原理を考え、学び、安定して上げる方法を実験で確かめる。			
諸条件	場 所	集会室 創作のやかた, グラウンド	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間30分程度(制作のみ)	人 数	40人
	時 期	通年	天 候	雨天時も製作は可能
活動の 教育的効果	・凧の製作を通して、ものづくりの楽しさや工夫する面白さを学ぶ。 ・凧の飛ぶ原理を考え、試行錯誤しながら凧を上げ、思考力や判断力を高める。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ ポリ袋 ☐ セロテープ ☐ 凧糸 ☐ はさみ ☐ 油性マジック ☐ カッター ☐ 型紙 ※用具は数に限りあり		☐ 定規 ☐ 材料費(150円)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	準備	☐ 製作の説明 ☐ けがや事故の注意		
	製作	☐ 凧の製作		
	移動	☐ グラウンドへ移動		
	実験	☐ 凧を飛ばす		
	終了	☐ 用具等の片付け ☐ 掃除 ☐ 連絡と諸注意		
想定される リスク	☐ 天候(雨、雷)により実施が不可 ☐ はさみ・カッターによるけが ☐ 凧糸の絡まりによるけが			
指導の バリエーション	☐ 凧の飛ぶ原理を考える。 ☐ 凧を上げるときは、お互いの距離を保ち、安全に十分注意する。			



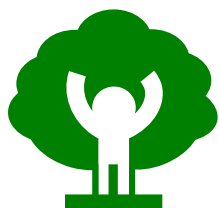
ウォーターロケット

概要 (セールスポイント)	・使用済みのペットボトルを再利用し、水と圧縮空気を使ってペットボトルを飛ばす。 ・水ロケットの製作を通して、ものづくりの楽しさや工夫する面白さを体験で学ぶ。 ・水ロケットの飛ぶ原理を考え、学び、遠くへ飛ばす方法を実験で確かめる。			
諸条件	場 所	大・小研修室, 創作のやかた, グラウンド	対 象	小学校高学年, 中学生
	所要時間	1時間30分程度(制作のみ)	人 数	40人
	時 期	通年	天 候	雨天時も製作は可能
活動の 教育的効果	・使用済みのペットボトルを再利用し、水と圧縮空気を使ってペットボトルを飛ばす。 ・水ロケットの製作を通して、ものづくりの楽しさや工夫する面白さを体験で学ぶ。 ・水ロケットの飛ぶ原理を考え、学び、遠くへ飛ばす方法を実験で確かめる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐ 自転車用空気入れ ☐ ゴム栓・自転車用リムバルブ ☐ ビニールテープ ☐ はさみ ☐ 油性マジック ☐ カッター ※用具は数に限りあり		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐ 定規 ☐ 500mlペットボトル(必ず炭酸飲料・丸型)3本 【重要】キャップ付きのペットボトルを用意願います。 ☐ 材料費(100円)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	準備	☐ 製作の説明 ☐ けがや事故の注意		
	ロケット 製作	☐ 水ロケットの製作		
	移動	☐ グラウンドへ移動		
	実験	☐ ペットボトルロケットを飛ばす 水の量を変えて飛ばす 羽根の役割		
	終了	☐ 用具等の片付け ☐ 掃除 ☐ 連絡と諸注意		
想定される リスク	☐ 天候(雨, 雷)により実験が不可 ☐ はさみ・カッター等によるけが ☐ 暴発による事故			
指導の バリエーション	☐ 水の量による飛距離の違い。 ☐ 羽根の形状や羽根の役割。 ☐ 作用・反作用の法則の学習。			



焼き杉板

概 要 (セールスポイント)	杉板にのりで文字・絵を描き、のりが乾く前にガスバーナーで杉板を焼くことで、杉の焼いた木目と、残った所(文字・絵)のコントラストが美しいプレートを作ることができる。		 	
諸条件	場 所	創作のやかた, 多目的ホール	対 象	小学生以上
	所要時間	約1時間30分	人 数	100人程度まで
	時 期	通年	天 候	随時
活動の 教育的効果	創作活動によって創造力が育まれる。また、自然材料の持つ美しさを感じることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 杉板 ☐ のり ☐ 真鍮ヒートン ☐ ガスバーナー ☐ たわし ☐ 雑巾 ☐ 千枚通し		☐ 材料費(200円) ☐ 事前に焼き杉に書く文字や絵を決めておくと作業がスムーズになる。 ☐ 新聞紙(作業の時に敷いたり作品を持ち帰る時に包んだりすることができる。) ☐ 筆記用具 ☐ 軍手	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ 使用する材料や道具の確認		
	説 明	☐ 準備物の説明 ☐ 作り方の説明 ☐ 失敗する書き方も説明(実際にやって見せる)もする ☐ やけどやけがの注意		
	制 作	☐ 焼き杉の制作 ・杉板にのりで文字・絵を描く ・のりを水で洗い流す。(しっかり洗う) ・ヒートンを付けて完成となる		・焼き作業は、責任者の方で安全管理をしてください。
	終 了	☐ 作品を新聞紙に包む		
	片付け	☐ 使用箇所の清掃 ☐ 流しの清掃(のりを洗い流す)		
想定される リスク	☐ 天候による場所の変更。 ☐ ガスボンベによる火傷。 ☐ 杉板を焼く作業では待ち時間ができてしまうため、安全に作業に取り組めるように順番を待っている時の指導。			



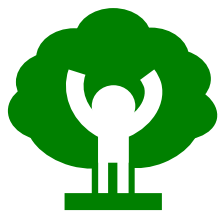
プラ板キーホルダー

概 要 (セールスポイント)	プラスチックのシートにマッキーで絵を描き、オーブントースターで焼くだけで、簡単にオリジナルのキーホルダーを作ることができる。完成後は、かばんやバックに付けて持ち歩くことができる。				
諸条件	場 所	創作のやかた, 集会室, 大・小研修室	対 象	小学生以上	
	所要時間	約1時間分	人 数	70人程度	
	時 期	通年	天 候	随時	
活動の 教育的効果	創作活動によって創造力が育まれる。また、プラ板が収縮する現象を目の当たりにすることで物質変化に対する興味関心を高めることができる。				
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)		団体(個人)が準備する物		
	☐ プラスチックシート ☐ ペンチ ☐ ストラップ ☐ オーブントースター ☐ アルミホイル ☐ マッキー ☐ はさみ ※用具は数に限りあり		☐ 材料費(100円) ☐ 事前にプラ板に描くデザインを決めておくと作業がスムーズになる。 ☐ 筆記用具 ☐ 軍手(引率者)		
活動内容 (手順)	活動の流れ				備 考
	事 前	☐ 使用する材料や道具の確認			
	説 明	☐ 作り方の説明 ☐ 責任者に穴の開け方の説明 ☐ プラスチックシートの焼き方の説明 ☐ けが・事故等の説明			
	準 備	☐ 教材配布			
	制 作	☐ プラ板にデザイン画を描く, 色を付ける, 穴をあける, ☐ プラ板をオーブントースターで焼く ☐ プラ板にキーホルダーを付けて完成			※プラ板を焼く作業は, 引率の大人の方にやっていただく作業となります。
	終 了	☐ 後片付け ☐ 諸連絡			
想定される リスク	☐ 焼く工程での火傷等に注意が必要である。 ☐ 焼き時間があまいと作品が歪んで失敗することもある。				
指導の バリエーション	☐ キーホルダーだけでなくブローチなどにもアレンジできる。 ☐ 指輪や飾りも作ることができる。 ☐ 個人の作品を合体させて一つの作品とすることも出来る。クラスで1つの作品など制作できる。				



箸作り

概要 (セールスポイント)	・角材を鉋ややすりで削りって自分だけの箸を作ることができる。塗装をして仕上げることも可能。 												
諸条件	場 所 所要時間 時 期	集会室 2時間30分程度 通 年	対 象 人 数 天 候	小学生高学年以上 50人 随時									
活動の 教育的効果	創作活動によって創造力が育まれる。また、自然材料の持つ美しさを感じることができる。												
準備する物	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="371 898 879 1160"> 少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐角材 ☐鉋 ☐ニス ☐やすり ☐テープ ☐のり ☐はさみ ☐のこぎり ☐げんのう ☐小刀 ☐ハケ ☐塗料 ※用具は数に限りあり </td> <td data-bbox="879 898 1372 1160"> 団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐材料費(150円) ☐軍手 </td> </tr> </table>				少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐角材 ☐鉋 ☐ニス ☐やすり ☐テープ ☐のり ☐はさみ ☐のこぎり ☐げんのう ☐小刀 ☐ハケ ☐塗料 ※用具は数に限りあり	団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐材料費(150円) ☐軍手							
少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む) ☐角材 ☐鉋 ☐ニス ☐やすり ☐テープ ☐のり ☐はさみ ☐のこぎり ☐げんのう ☐小刀 ☐ハケ ☐塗料 ※用具は数に限りあり	団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐材料費(150円) ☐軍手												
活動内容 (手順)	活動の流れ	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="371 1160 497 1283"> 事前 </td> <td data-bbox="497 1160 1131 1283"> ☐使用する材料等の確認をする。 </td> <td data-bbox="1131 1160 1372 1283"> 備 考 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1283 497 1379"> 製作 </td> <td data-bbox="497 1283 1131 1379"> ☐作り方の説明をする。 ☐箸作り製作を行う。 ※塗装後、翌日まで乾かしてから使用する。 </td> <td data-bbox="1131 1283 1372 1379"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1379 497 1485"> 終了 </td> <td data-bbox="497 1379 1131 1485"> ☐後片付けをする。 ☐諸連絡 </td> <td data-bbox="1131 1379 1372 1485"></td> </tr> </table>			事前	☐使用する材料等の確認をする。	備 考	製作	☐作り方の説明をする。 ☐箸作り製作を行う。 ※塗装後、翌日まで乾かしてから使用する。		終了	☐後片付けをする。 ☐諸連絡	
事前	☐使用する材料等の確認をする。	備 考											
製作	☐作り方の説明をする。 ☐箸作り製作を行う。 ※塗装後、翌日まで乾かしてから使用する。												
終了	☐後片付けをする。 ☐諸連絡												
想定される リスク	☐のこぎり、げんのう等を使用する際に、誤ってけがをしてしまう。												



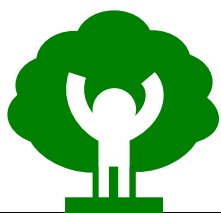
和紙のランプシェード

概 要 (セールスポイント)	・好きな色や柄の和紙をちぎって、オリジナルのランプシェードを作ることができる。 ・LEDライトを中に入れることで、優しい明るさのランプになり、お家で使用することができる。			
諸条件	場 所	多目的ホール, 集会室, 創作のやかた, 大・小研修室	対 象	小学生以上
	所要時間	約2時間	人 数	50人程度
	時 期	通年	天 候	随時
活動の 教育的効果	創作活動によって創造力が育まれる。また、日本古来の伝統的な紙である和紙を使用することで、伝統文化のよさを知る機会となる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 和紙 ☐ 洗濯のり ☐ LEDライト ☐ 紙コップ ☐ ラップ ☐ 新聞紙 ☐ 筆 ☐ のりを入れる器 ※用具は数に限りあり		☐ 材料費(200円) ☐ 筆記用具 ☐ 雑巾 ☐ ふきん	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ 使用する材料の確認		
	制 作	☐ 作り方の説明 ☐ ランプシェード作成 ☐ 点灯式		
	終 了	☐ 後片付け ☐ 諸連絡		
想定される リスク	☐ 完成品を持ち帰るときの破損 ☐ LEDライトの破損(個体差による不良)や点灯しにくいなど			



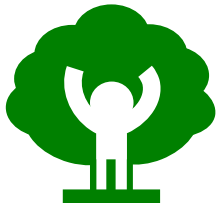
シャボン玉

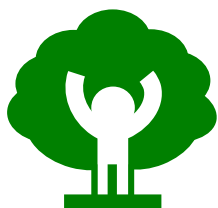
概要 (セールスポイント)	・小さなシャボン玉や大きなシャボン玉を作って楽しく遊ぶ。 ・長い時間浮いている不思議なシャボン玉を工夫してつくる。			
諸条件	場 所 所要時間 時 期	創作のやかた付近 1時間30分程度 5月から10月	対 象 人 数 天 候	小学生 50人程度 小雨程度まで
活動の 教育的効果	シャボン玉遊びを通して、シャボン液による表面張力を体験することができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物 ☐実験用シャボン液(各種) ☐ストロー ☐針金と針金に巻く毛糸 ☐ハサミ		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐材料費(50円) ☐シャボン玉をつくる道具 ☐シャボン玉の道具を入れる袋	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	説明	☐グループづくり ☐準備と説明		☐創作の館で説明
	準備	☐シャボン玉を作る道具づくり		☐下足で流し場近くで活動 ☐暑さ対策(帽子等)
	シャボン玉を飛ばす	☐小さなシャボン玉や大きなシャボン玉を飛ばす		☐グラウンドで飛ばす
想定される リスク	☐シャボン液が目に入る。 ☐雨天時による活動の変更。			
指導の バリエーション	☐シャボン液と洗濯糊の混ぜる割合とシャボン玉のでき方。 ☐砂糖を混ぜた時の表面張力の大きさの変化。			



チラシからこま

概 要 (セールスポイント)	身近にある「チラシ」を材料に、簡単な工作でよく回るこまを作る。			
諸条件	場 所	創作のやかた, 多目的ホール, 集会室, 大・小研修室	対 象	小学生以上
	所要時間	約1時間30分	人 数	150人程度まで
	時 期	通年	天 候	随時
活動の 教育的効果	・簡単な工作でものづくりの楽しさを味わう。 ・どうしたらよく回るこまになるかを考え、工夫し、実験を通して質を高める経験ができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐セロハンテープ ☐ハサミ ※用具は数に限りあり		☐チラシ	
活動内容 (手順)	所要時間			備 考
	説明 10分	☐製作の説明		
	活動 40分 ～ 80分	☐製作開始 ☐完成後、順次回し方の説明 ☐回して遊ぶ(希望者は2, 3つ目の製作も可)←材料が足りれば		
	終了	☐後片付け		
想定される リスク	☐ハサミやテープカッターによる怪我			
指導の バリエーション	☐芯棒の長さ、円盤の大きさや位置を変えて作り、回り方を比べてみる。 ☐物理法則「角運動量保存の法則」の説明			

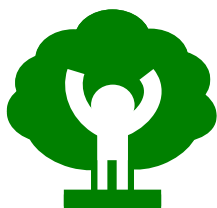
	チラシかざぐるま				
概 要 (セールスポイント)	身近にある「チラシ」を材料に、簡単な工作で、風を使ってくるくる回るかざぐるまを作る。				
諸条件	場 所	創作のやかた, 多目的ホール, 集会室, 大・小研修室		対 象	全年齢
	所要時間	約1時間00分		人 数	150人程度まで
	時 期	通年		天 候	随時
活動の 教育的効果	・はさみやのりなど道具の正しい使い方を知る。 ・風を使って遊ぶことで、風の力や方向に興味関心をもつ。				
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考		
	☐セロハンテープ ☐ハサミ ☐ストロー ※用具は数に限りあり		☐チラシ ☐材料費(50円)		
活動内容 (手順)	所要時間				備 考
	説明 10分	☐製作の説明			
	活動 50分	☐製作開始 ☐回して遊ぶ(希望者は2, 3つ目の製作も可) ←材料が足りれば			
	終了	☐後片付け			
想定される リスク	☐ハサミやテープカッターによる怪我				
指導の バリエーション	☐風の向きで回り方が変わること気づき、よく回るよう工夫しながら遊ぶ。 ☐気づいたことを友達や先生と話したり、試したりしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。				



陶芸体験

概 要 (セールスポイント)	・ろくろを使わず手作りで世界で一つだけの作品を作ることができる。 ・宿泊した自然の家での活動の思い出作品として残る。			
諸条件	場 所	創作のやかた, 多目的ホール, 集会室	対 象	全年齢
	所要時間	1時間30分～2時間程度	人 数	100人程度まで
	時 期	通 年	天 候	全天候
活動の 教育的効果	表現する力を育む。実際にねんどに触れ, 完成のイメージをもちながら, 自分ならこういうものを制作してみたいという思考の過程を通して, 創造力を高めることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(材料を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 粘土 ☐ 新聞紙 ☐ 水入れ(グループに1個) ☐ 竹串		☐ 材料費(900円) ☐ 事前にどんな焼き物を作るか決めておくと作業がスムーズになる。	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ 自分の生活の中で, どのような場面で陶器を使用したかを考えておくと, 作品作りがスムーズにいく。		
	説 明	☐ 手法説明(陶芸店「大友工芸」が指導)		
	準 備	☐ 説明後に材料と道具配布		
	陶器づくり	☐ 作り方で悩んでいる人に対する支援補助(責任者) ☐ お互いの作品を鑑賞し合う		
	終 了	☐ 後片付け ☐ 連絡等(作品の出来上がりは1ヵ月半程度)		
想定される リスク	☐ 仕上がりまで, 1ヵ月半程度かかることを確認。(県内は窯元から直接団体に届けられる。県外は着払いで郵送されます。) ☐ 制作過程で上手くできない参加者への支援・補助。			
指導の バリエーション	☐ 最後に余った粘土で, 模様を付けられる。 ☐ ねんどの余りが無い人は, 竹串で模様を描くこともできる。			

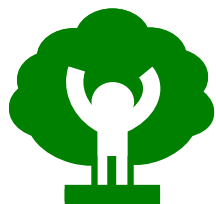
	火起こし体験			
概 要 (セールスポイント)	・火起こし器具を使い、火を起こす感動を味わう体験活動。 ・自然界における、摩擦のエネルギーから火を起こす体験活動。			
諸条件	場 所	飯ごう場, 創作のやかた, 多目的ホール	対 象	小学生(4年生以上), 中学生
	所要時間	約1時間30分	人 数	80人程度
	時 期	通年	天 候	雨天時も可(要相談)
活動の 教育的効果	自然界における摩擦のエネルギーについて、体験を通して学ぶことができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐火起こし器具 ☐火起こしに必要な材料		☐材料費(50円) ☐軍手	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	準備	☐グループづくり(2人1組が望ましい) ☐準備と説明		
	火床準備	☐材料の準備 ☐火起こし道具の使い方 ・麻ひもをほぐして火床の燃材をつくる。		
	火おこし体験	☐製作した火おこし器具で火を起こす(グループ活動)		
	終了	☐連絡と諸注意		
想定される リスク	☐火がつかないで活動が終わってしまう。 ☐活動中の道具によるケガ。 ☐活動中のヤケド。			



グループワーク

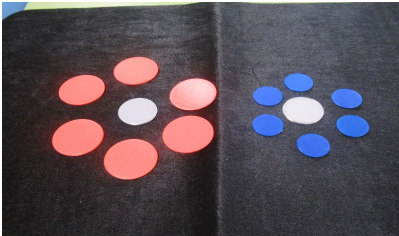
～みんなと一緒に楽しもう～

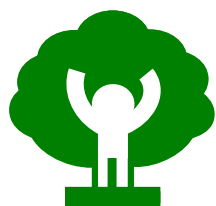
概 要 (セールスポイント)	・『かかわる体験』を通して、『楽しむことからはじめよう』をキーワードに、理解し合う、支え合う、関わり合うことを楽しみながら心を育てていく。 ・グループワークを通して、自分が他者から存在を認められたり、信頼されたりしているというを感じ、自分の存在の価値や大切さを自覚する感覚を理解し、一人ひとりの自己有用感を高めることができる。 ・楽しく盛り上がる時間が過ごせる。			
諸条件	場 所	多目的ホール・大研修室	対 象	小学生以上
	所要時間	1時間 ～ 2時間(調整可)	人 数	制限なし
	時 期	通 年	天 候	制限なし
活動の 教育的効果	・すべての参加者を対象にして、他者との関わりを通して、必要な対人的技能や心理的資質を楽しみながら育てることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む) ☐ ワイヤレスマイク ☐ ゲームに使用する小道具		団体(個人)が準備する物 ※参考 ☐ 上履き ☐ 動きやすい服装	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前 準 備	☐ 1グループ8人を決めておく。 ☐ グループワークの流れの確認 ☐ 上履き、動きやすい服装の確認		
	グループ ワーク活 動	☐ 活動を始める前のあいさつ ☐ ボランティア紹介 ☐ 活動上の注意点 ☐ グループワークスタート 手合わせ・風船ゲーム・スゴロトキング・ 人間知恵の輪・後出しじゃんけんなど		
	終 了	☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する。 ☐ 各団体の目的に応じた事後指導。		☐ 参加者の健康観察
想定される リスク	☐ 活動を楽しめない参加者やグループに入ろうとしない、入れない参加者へのフォロー。 ☐ 疲労や集中力不足の事故やけが。			
指導の バリエーション	☐ 参加者だけではなく、団体の責任者等の大人が入って行う。 ☐ 利用者の希望に応じてプログラムを選択することができる。(事前に要相談)			



錯覚で遊ぼう

～錯覚の世界を楽しもう～

概要 (セールスポイント)	・「錯視」や「だまし絵」を理解することは、視覚的な知覚を刺激し、子どもの発想力や想像力を育んだり、また見える視覚情報が必ずしも真実とは限らないなど、物事を批判的に思考する力、そして判断する力を養ったり、することができます。講座では、錯覚に関わる様々な画像や立体を効果的に使うことで、その不思議な見え方のする錯覚の世界を体感します。			
諸条件	場所	大研修室	対 象	全年齢
	所要時間	1時間 ～ 2時間(調整可)	人 数	制限なし
	時 期	通 年	天 候	制限なし
活動の 教育的効果	・同じものが条件によって違って見えることを理解し、多面的なものの見方を育む。 ・脳の活動(視覚)やそのメカニズムの面白さに気づく。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ ゲームに使用する小道具		☐ 筆記用具	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前 準 備	☐ 活動の流れの確認		
	活 動	☐ 活動を始める前のあいさつ ☐ 講師紹介 ☐ 活動上の注意点 ☐ 開始		
	終 了	☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する。 ☐ 各団体の目的に応じた事後指導。		
想定される リスク	☐ 集中力持続の途切れ			
指導の バリエーション	☐ 参加者だけではなく、団体の責任者等の大人も一緒に遊び、お互いのコミュニケーションを深める。 ☐ 利用者の希望に応じて、難易度の調整が可。(事前に要相談)			



宇宙パズル & クエスチョン

～謎を解き明かそう～

概要 (セールスポイント)

・宇宙飛行士も訓練にパズルを使っています。彼らは真っ白なジグソーパズルをひたすら組み立てることで、極限状態が想定される宇宙空間にも耐えられる集中力を養っているのです。パズルを通じ、子ども自身が頭を使って考える機会になり、手先の感覚や器用さ、空間認識力、想像力、論理的思考力などを育み、プログラミング思考への効果も期待できます。

・講師オリジナルの宇宙をテーマにした設問を解き、互いの解答を比べ、解説を聞く過程で、知的好奇心を抱いたり、論理的思考力、問題解決能力、協調性を養ったりすることができます。



諸条件

場 所	大研修室	対 象	全年齢
所要時間	1時間 ～ 2時間(調整可)	人 数	50人
時 期	通 年	天 候	制限なし

活動の 教育的効果

・集中力や記憶力、推理する力、空間認識力、協調性などを養い、頭や手を活発に動かして総合的な成長を育む。

準備する物

少年自然の家が貸出可能な物(教材を含む)	団体(個人)が準備する物 ※参考
☐ ゲームに使用する小道具	☐ 筆記用具

活動内容 (手順)

活動の流れ		備 考
事 前 準 備	☐ 活動の流れの確認	
活 動	☐ 活動を始める前のあいさつ ☐ 講師紹介 ☐ 活動上の注意点 ☐ 開始	
終 了	☐ 活動のふりかえりを行い、感じたことを発表する。 ☐ 各団体の目的に応じた事後指導。	

想定される リスク

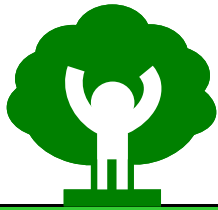
☐ 集中力持続の途切れ

指導の バリエーション

☐ 参加者だけではなく、団体の責任者等の大人も一緒に遊び、お互いのコミュニケーションを深める。

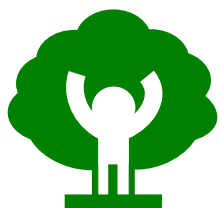
☐ 利用者の希望に応じて、難易度の調整が可能。(事前に要相談)

☐ いくつかのグループに分かれて、制限時間内にどこまでできるか、どのグループが早く完成させられるかを競うという楽しみ方や、各グループで役割分担をして進めることができる。



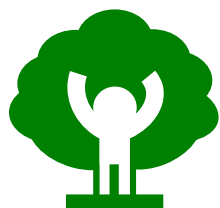
キャンプファイヤー

概 要 (セールスポイント)	・日が沈みかけた夜の自然の中で炎を囲み、ゲーム、ダンスなどを行うことで、連帯感や友情を深めることができる。 ・研修計画のどの辺りに取り入れるかで、集団の緊張をほぐし、親睦を深めたり、研修の振り返りや自己を深く見つめる場となることができる。			
諸条件	場 所	営火場(室内も含む)	対 象	全て
	所要時間	約1時間	人 数	制限なし
	時 期	通 年	天 候	多目的ホールのみ雨天時可
活動の 教育的効果	・歌やゲームを通し、友情や親睦を深めることができる。 ・キャンプファイヤーの企画や運営を通し、リーダー性や協調性を養うことができる。 ・煌々と燃える火を見つめながら、自分の心を見つめることができる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 火の神衣装 ☐ トーチ(5本) ☐ 灯油 ☐ アンプ ☐ マイク ☐ 延長コード		☐ 軍手 ☐ 懐中電灯 ☐ 薪(自然の家に注文、持ち込みも可) ☐ 薪代(外は3000円、室内は1800円)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ 役割分担 ☐ 安全指導 トーチを持つ生徒への安全指導 ・大きな火の周りでレクをする事への注意喚起		
	準備	☐ 薪・すのこ・衣装・トーチ・灯油を受け取る ☐ 営火場へ薪を運び、セッティングする		☐ セッティングは職員指導可
	キャンプ ファイヤー	☐ 第1部(迎火のつどい) ☐ 第2部(交歓のつどい) ☐ 第3部(送火のつどい)		
	片付け	☐ 薪を燃やし切るようにする ☐ 翌朝、清掃用具を持って灰と燃え残った薪を処理する ☐ 灰は、灰捨て場に捨てる		※消火確認
想定される リスク	☐ けが(準備段階での薪で指を挟む、とげが刺さる) ☐ やけど(衣服に火が燃え移る、火の粉が体や衣服に付く) ☐ 火事(風向き、乾燥期などの天候を最大限考慮する) ☐ 転倒(暗闇の中のレクリエーション) ☐ 虫刺され			
指導の バリエーション	☐ 火を小さくして、火を見つめながら仲間と語るよう指導する。 ☐ 団体の計画や参加者主体の自由な発想での実施をおすすめします。 ☐ 天文指導員による星空案内を組み込むことも可能です。(応相談)			



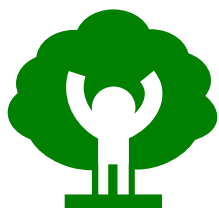
キャンドルサービス

概 要 (セールスポイント)	・燭台にろうそくを全員立て、静かな暗闇に揺れるキャンドルの炎で深い感動を全員で共有する。 ・キャンプファイヤーの動に対しキャンドルサービスは静ともいえる。 ・火を見つめ、安らかな 気分で心落ち着かせ、集まった人々の心に新しい何かを芽生えさせる。			
諸条件	場 所	多目的ホール・創作のやかた	対 象	小学生以上
	所要時間	約1時間	人 数	120人程度(燭台105本)
	時 期	通年	天 候	全天候
活動の 教育的効果	・燭台にろうそくを全員立て、静かな暗闇に揺れるキャンドルの炎で深い感動を全員で共有する。 ・キャンプファイヤーの動に対しキャンドルサービスは静ともいえる。 ・火を見つめ、安らかな 気分で心落ち着かせ、集まった人々の心に新しい何かを芽生えさせる。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	☐ 燭台 ☐ ブルーシート ☐ 衣装 ☐ アンプ ☐ マイク ☐ 延長コード		☐ ろうそく(火の神用・火守り用・全員用) ☐ アルミホイル ☐ その他(懐中電灯等)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事 前	☐ ロウソクにアルミホイルを付ける (溶けたロウで火傷をしないため)		
	準 備	☐ 燭台を設置する ☐ 火守り予行練習 ☐ けがや事故等の注意		※燭台のろうそく台の本数は105本。
	第一部	☐ ともしびのつどい		
	第二部 第三部	☐ 交歓のつどい ☐ 別れのつどい		
	終 了	☐ 連絡と諸注意		
想定される リスク	☐ 溶けたロウによる火傷 ☐ 暗闇での転倒等のケガ ☐ 虫刺され			
指導の バリエーション	☐ 第一部 開会の言葉等を団体独特のものに変える。 ☐ 第二部 レクリエーションも団体独自の楽しいものを企画する。			



天体観望会

概 要 (セールスポイント)	・口径30cmの大望遠鏡を使い、星空を眺められる。 ・専任の講師が年齢に応じて分かりやすく星空を解説。 ・季節により、月のクレーターや土星の輪っかまできれいに見ることができる。 ・クラスごとに交代でお風呂に入る場合、待機時間で観望する気軽な利用もできる。			
諸条件	場 所	駐車場・グラウンド	対 象	全 体
	所要時間	30分～1時間30分	人 数	制限なし
	時 期	通年	天 候	晴天のみ
活動の 教育的効果	・専任の講師が年齢に応じて分かりやすく星空を解説するので、子どもたちの宇宙に対する興味や関心を引き出します。			
準備する物	少年自然の家が貸出可能な物		団体(個人)が準備する物 ※参考	
	□大望遠鏡		□虫除け(時期に応じて) □上着(年間を通じて)	
活動内容 (手順)	活動の流れ			備 考
	事前	□一度に全員で見えるのか、班ごとに時間を区切って見るのか決めておく。 □雨の場合の対応(屋内での天文教室への変更) □虫除け対策(夏) □防寒対策(冬)		
	観望会	□説明を聞く。 □順番を守りながら月や星を観察する。 □質疑応答		□望遠鏡をつかんでしまうと望遠鏡が動いてしまい、星が見えなくなるので注意する。 □暗い中での活動のため、走らないよう安全に留意する。
想定される リスク	□観望会の途中で曇ってしまい見えなくなる □暗い中での転倒による怪我 □虫刺され(夏場) □冷え込みによる体調の悪化(夏でも)			
指導の バリエーション	□見ている星までどれくらい離れているか、なぜ光って見えるのかなどを考えさせる。			



プラネタリウム

概 要
(セールスポイント)

・プラネタリウムドームを使い、星空を観賞します。
・専任の講師が年齢に応じて分かりやすく星空を解説します。



諸条件	場 所	多目的ホール	対 象	全 体
	所要時間	30分～1時間30分	人 数	1回につき25人まで
	時 期	通 年	天 候	随 時

活動の教育的効果
専任の講師が年齢に応じて分かりやすく星空を解説するので、子どもたちの宇宙に対する興味や関心を引き出します。

準備する物	少年自然の家が準備する物	団体(個人)が準備する物 ※参考
	☐ プラネタリウムドーム ☐ 投影機	

活動内容 (手順)	活動の流れ		備 考
	事前	☐ 人数が多い場合は何回で実施するか担当と相談する。 ☐ ローテーションの場合は、その旨児童・生徒に伝える。	
	観望会	☐ 静かに観賞する。 ☐ 暗い中での活動のため、走らないよう安全に留意する。	

想定されるリスク
☐空調に限度があるため、夏は暑くて冬は寒い。
☐密閉空間に大人数が入るので、急な気温・湿度の上昇による体調不良または風邪や感染症等による感染拡大に留意する必要あり。

指導のバリエーション